

巻頭言

善光寺住職 黒田博志

「仏道を通して、世界の安心・平和・幸福に寄与する人材を育てる」の大誓願のもと、師父、大圓武志大和尚が善光寺開創十五周年を記念して設立した「善光寺海外留学僧派遣育英会」も本年第三十回を迎えることが出来ました。これもひとえに仏天のご加護、檀信徒の皆さま、ご縁の方々の絶大なるお力添えのお蔭であります。心より篤く感謝申し上げます。

師父は檀信徒の皆さまに「毎食一口減らしその分を将来、仏教興隆を担う人材育成のためにご浄財をご喜捨していただきたい」と呼びかけ、それに応えて下さ

り、まさに寺檀一体となり今日に至ります。この間、留学僧育英生は百二十名となり、国内はもとより世界各地でめざましいご活躍をしております。

この機に、当会理事で第六回育英生でもある駒沢女子大学安藤嘉則教授の発案により、育英生各々に留学先で得た経験や活躍の様子などをお話し頂く記念交歓会が五月二十八日に執り行われました。

当日は初代理事長に対する報恩供養ののち、設立当初より公私共にご尽力賜っている当会名誉顧問、加賀大乘寺山主東隆眞老師による基調講演。さらに国内外より参集された育英生の方々と育英会の意義、初代理事長の遺志を改めて再認識し、次代に継続するために何をなすべきかを語り合う事が出来ました。

同じく五月に、檀信徒の皆さまと大本山永平寺並びに御誕生寺に参詣致しました。永平寺では入祖堂法要にて師父の位牌を承陽殿に納めさせて頂きました。また、御誕生寺では元總持寺貫首板橋興宗禅師さまより温かいおもてなしとご法話まで戴き、有り難い報恩感謝のまことを尽す参拝旅行となりました。

改めて師父の遺した足跡、その大きさを思い知らされた一年でありました。

「只管打坐」(ただひたすらに坐る)

永平寺を開かれた道元禪師さまのお示しです。

坐禅は正師を見つけないで十年坐る。十年坐ったらもう十年。二十年坐ったらさらに十年といわれ、三十年坐って初めて見えてくるものがあると教わりました。

私自身、二十一年前、永平寺の門を叩き、僧侶としての道を歩み始めました。

それから十年経たずに正師である師父を失い、お寺を護る重責に押しつぶされそうになった時もありました。それでも師父の遺してくれた善光寺、ご縁の皆さま、諸老師方、檀信徒の皆さまに支えられ、皆さまを師と仰ぎ十二年余り過ごして参りました。

おかげさまで、お寺では各種行事や参禅会、写経会や論語教室、書道教室、華道教室もご縁の方々に浸透して参りました。新たに御詠歌教室もはじまり、共に

お釈迦さまのみ教えを学び楽しくお唱えしております。有難いことです。

大圓大和尚の

『法燈高く耀く善光寺 仏徳常を開く成寿の山』

を信念とし、皆さまとともに、仏法に親しみ、心やすらかに日々を過ごしていただけるように精進して参ります。

今後ともご指導ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。